

まるまるマルシェ&のうぶくマルシェ 雑貨とお野菜とお菓子と絵本

「マルシェを通じて広がった交流」

「たくさんの方にお立ち寄りいただきました！」

この秋、第三かめおか作業所はお菓子を置いていただいたカフェ「もみじの木」の雑貨屋とカフェ「y.o.o.(京都・嵐山)」さんとマルシェを開催しました。以前からy.o.o.さんには「いつか色々な人が楽しく集まれるマルシェを一緒にしませんか?」とお声かけいただいていました。「まるまる」は〇と〇に何が入っても、誰が入ってもいい、お互いにちよつとステキなことがある!という願いを込めたネーミング。y.o.o.さんが関わっておられる全国の作家さんや、私たちがイベントなどでご一緒した皆さまに出展いただくことが決まりました。その数、

約30ブース!あわせて亀岡福祉会が事務局を担っている、きょうと農福連携センター中サテライト主催の「のうぶくマルシェ」も同時開催。地元で採れた新鮮野菜がずらりとならぶことになりました。当日は絵本のリサイクルや家から一冊を持参す



れば交換できるコーナー、絵本の読み聞かせや紙芝居、第三かめおか作業所のメンバーが担当するクイズスタンプラリーなど楽しい企画も準備しました。

亀岡市子育て支援課や市内の保育所、幼稚園さまにはチラシやポスターを掲示

いただき、亀岡市社会福祉協議会、NPO法人亀岡子育てネットワークさまには名義後援をいただき、読み終えた絵本を寄付する「絵本箱」も設置いただきました。

「どのぐらいの人が来てくれるかな…」と心配をしましたが、ご自宅から絵本を持ってきてくださった方もたくさんおられ、用意したスタンプラリーの景品もほぼなくなるほど大盛況。「保育所でチラシをもらって楽しみにしていました」「次はいつですか?」など多くの方に声をかけていただき、とっても楽しい一日となりました。障害のある人とお菓子づくりを通じて亀岡だ



けでなく、京都市内や他府県にもひろがってきたつながり、多くの人が私たちのことを知ってください、応援しようという関心を寄せてくださっていることを肌で感じました。日ごろ事業所のなかにいるだけでは分からない、亀岡福祉会がずっと大切

にしてきた、障害のある人と地域とのつながりを、身をもって実感する機会となりました。ご協力くださった皆さま、

立ち寄ってくださいました皆さま、本当にありがとうございました。



きょうされん 第46次国会請願署名・募金運動にご協力をお願いします!!



今年も国会請願署名・募金運動が始まりました。しかし、今年も取り組みのスタートとしての『がんばるDAY』（障害者週間に合わせて、街頭に立ち、署名・募金活動をよびかける運動）は、コロナ禍が収まりきっていないため中止になりました。ただ、年明けからの街頭署名活動に関して、今年は、実施する方向で考えております。コロナの感染予防に十分配慮したうえで、お一人お一人に私たちの願いや思いを訴えていきたいと思えます。

第46次の署名の請願項目は4つあります。どれも私たちの願いや思いがいっぱい詰まった請願項目です。また、だれもが「あたりまえにはたらしき えらべる暮らしを」は、今年も大きなスローガンになっています。署名を頑張ったからと言って、すぐに何かが変わるわけではありませ

■請願趣旨

日本は、2014年に障害者権利条約を批准し、障害のある人が障害のない人と平等に生きられる制度を作ると約束しました。2022年8月には、障害者権利委員会において、日本の障害者の制度が障害者権利条約にそった内容になっているのかどうかの審査（建設的対話）がありました。

日本からは100人以上の人が、初めての建設的対話を見守るために、ジュネーブの国連本部にかけつけました。9月9日に出された「勧告（総括所見）」では、日本の制度が障害者権利条約の内容にそっていないと、権利委員会から日本政府に対してたくさんの注意（勧告）が出されました。

新型コロナウイルスの感染拡大はまだ終わっていません。さらに物価高によって、作業所の仕事のための材料が値上がりしたり、毎日の食費や光熱費も上がって、障害のある人の生活はますます厳しくなっています。障害者権利委員会が出した総括所見にもとづいて、障害のある人が安心して暮らせる制度や施策を求めていきます。

ん。しかし、将来に変化の結果を得るためには、今その一因を積み上げていく必要があります。一人でも多くの方に障がいのある人の願いと実態を知っていただく、そのための署名でもあります。

亀岡福祉会では、今年も署名推進委員会を中心に、障害のある人の「他の者との平等」の生活が当たり前になるまで粘り強く、制度改革を訴えていきます。

ぜひとも、多くの方のご協力をよろしく願います。

■請願項目

1. 国は責任をもって優生保護法問題の全面解決を図り、優生思想をなくすことに力を尽くしてください。
2. 新型コロナウイルス感染拡大が長期化する中、障害のある人の命と健康、そして障害児者事業所の安定した運営を守るために
 - (1) 障害のある人をはじめすべての国民がコロナに感染しても安心して医療にかかれるよう、医療体制の拡充を図ってください。
 - (2) コロナを原因とする利用自粛や休所による事業所の減収を国が補填すると共に、安定した事業所運営ができるよう運営にかかわる報酬（人件費・固定費）は月額払いとしてください。
 - (3) 地域活動支援センターへのコロナに対応する各種の給付について、障害者総合支援法に基づく個別給付事業と同じ取り扱いにしてください。
3. 物価高で大きな影響を受けている障害のある人の生活と、障害児者事業所の運営を守るために
 - (1) 障害基礎年金を増額するなど、障害のある人の所得保障策を講じてください。
 - (2) 障害者総合支援法にもとづく事業において、障害のある人と家族の自己負担をなくしてください。
 - (3) 物価高の影響を受けている障害児者事業所に対して、助成措置を講じてください。
4. 障害のある人が65歳になっても、必要な支援を自ら選んで、費用負担なく利用できるようにしてください。

「ちょっと聞いてよ！」

第42回
たけばやし まさゆき
竹林 昌之さん
(かめおか作業所)



竹林さんは、かめおか作業所の下請け1グループに所属しています。今年度は作業以外に、自作の物語を書いたり詩を執筆するなど、新しいことにも挑戦！最近では作業の幅も広がり、いろんなことへ挑戦する姿もみられています。

↓下請けグループでは主にどのような作業をしていますか？

最近では七味の木の入れ物を削ってワックスをかけ、拭き取って再度滑らかにする作業をしています。この秋から新しくもらっている作業ですが、3000〜5000個ほどが一度にくるので大変です。昔は職人仕事をしていたので、この仕事にこだわりを持って真剣に取り組んでいます。自分に合う作業だなと思いついてはじめています。

↓お休みの日は何をしていますか？
ゲームをしています。ゲームをやっている過程で人間的に成長できたり、学ぶ材料

のあるものが好きです。特に三国志など歴史の観点を感じられるものが好きで、自分はゲームから、様々な選択肢や可能性が無限にあることを学びました。今の自分の中にも役立つことが多々あると思います。

↓好きなことはなんですか？

最近は何かに勧められて、時々物語を執筆しています。挿絵も描きます。ある漫画のキャラクターを使って、自分なりにこんな物語があったら面白いなあと思いを巡らせながら、仮想のシナリオを書いて楽しんでいます。ノートにだいたい書き溜まっています。また社会情勢についても興味があります。ロシアとウクライナの現状にも注視しています。平和と人間との在り方について、自分の考えを書いたりしています。

↓これからこんなことがしてみたいと思うことはありますか？

健康に生きていきたい。強いて言えば今の状態が一番幸せだと思う。今自分には親もいて、兄弟もいて、日常が平和であることが一番の幸せだと思っています。また、世界が平和であることが自分の最大の望みです。世界が争いなく他者が他者を思いやるような、絆でつながった世の中であってほしいです。



時

私は長女で、妹がいる。この間久しぶりに長い時間話す機会があった。妹は、友達とはまた違う感覚で話ができる不思議な存在だ。幼い頃からぶつからなくてもいい壁にぶつかって、親を困らせていた自分と違い、妹は穏やかで優しい性格だ。一般的に長女の気持ちは複雑だと思う。生まれて親の愛情を一人占めしていたら、兄弟ができた途端に注目の大部分は下の子にもっていかれる。私は母のお腹の中でもやんちゃだったのか、股関節を脱臼して生まれ、生後1年間ずっと足を吊っていたらしい。大事な成長の過程での事とあって甘えが増殖し、妹に憎さ100倍でいつも一方的なケンカをしていた(らしい)。しかし、成長と共に徐々に色んな事を相談しあえる仲となった。物静かな中学生の妹が「プロレスラーになりたい」と言い出した時は母と本気で心配した。そんな感じですと続くように思っていた家族は当然のように形を変えて、自分が親になり子供も成長していった。年だけは重ねて、自分の事は何も分かってないような気がするが、少しずつ今までの自分を振り返る時間が来ているのかなと妹と話をしていた。

(Y)